



アクト

第14号

2011年1月24日発行

九州国立博物館を愛する会

ごあいさつ

九州国立博物館を愛する会 理事長 前田和美

あけましておめでとうございます。本年は、九州国立博物館のスタッフの方々、約88名の会員の皆様とタイでのすばらしい民間外交で、幕を開けることが出来ました。各委員会の方々も新しい試みに向かって頑張っておられます。今年一年が九州国立博物館にとっても、会員の皆様にとっても、実り多い一年になりますよう心からお祈り申し上げます。

例会委員長 吉村美和

明けましておめでとうございます。昨年に引き続き例会を担当させていただきます吉村です。

今年は『黄檗・OBaku』、『日本の宝をまもる・文化財保存修理の歴史(仮称)』『草原の正倉院・契丹王朝と美のユーラシア(仮称)』での特別観覧例会を開催させていただく予定ですので、メンバーの皆様のご出席を心よりお待ちしております。一年間よろしく願いいたします。

広報委員長 西村一子

輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。広報委員会は、会報誌「アクト」を年四回発行しております。これからも皆さまに楽しく読んでいただけるように、広報委員一同精一杯頑張る所存です。本年もどうぞよろしく願いいたします ㊦()㊦

事業委員長 松岡良一

新春をお慶び申し上げます。今年三月、九博ボランティアI期(事業委員会スタッフ十七名)の皆さんは六年間活動の総仕上げ、卒業の年です。九博を支援する会から活動された皆さんには当時のボランティア研究部会報「ぼらんていあ」のページを捲ると当時の熱き思いがあらためて伝わってきます。今年は中学に進学するつもりで初心に返り新たな挑戦を、この「九博を愛する会」で一緒に始めましょう！今年もどうぞ宜しくお願いします

交流委員長 久保山辰己

本年は、1月に開催いたしました九州国立博物館海外支援旅行に多くの会員の皆様にご参加いただきました、ありがとうございます。本年度も、交流委員会では、愛する会の会員の皆様の交流、また会員の皆様と博物館との交流を図っていきたくと考えています。また、愛する会のホームページも新しくなりましたので、こちらの方も愛する会の活動や、各委員会の事業報告等を速やかにホームページ上に公開し、情報を発信していきます。一年間よろしく願いいたします。



交流委員会委員長 久保山辰己



1月12日（水）から16日（日）の3泊5日の行程にて、九州国立博物館が初めて海外展をタイで開催することになり、その支援旅行に行ってきました。

出発当日は小雪が降る中、福岡国際空港より総勢88名が篤い思いを持ってタイに出発しました。直行便にて約6時間で到着すると、そこはもう気温30℃のバンコクです。皆さん冬の装いをしていたので、空港に着くと暑そうでした。

2台の大型バスに分乗し、バンコク市内を眺めながらホテルに向かいます。バンコクは車がとても多く、車線も6車線あるような道路もあります。殆どの車が日本車です。ホテルに到着するともう夕刻です。最初の夕食に出発です。

初日は「タイスキ」でした。今回の旅行の団長でもある太宰府天満宮の西高辻宮司もご参加され、楽しく食事をしました。「タイスキ」は日本人の口に合うのか好評でした。



13日（木）は世界遺産のアユタヤ観光です。太宰府天満宮の職員の方々や川添副理事長はレセプションの打ち合わせのため、参加することができず残念そうでした。

アユタヤ観光では、アユタヤ遺跡に向かう途中でバンパイン宮殿を見学しました。バンパイン宮殿は、アユタヤ王朝の歴代君主が夏の離宮として使用し、ラーマ4世が再建したといわれています。その後、日本人村などを

経由してアユタヤに到着しました。ここでは象に乗りました。私をはじめ、殆どの方が象に乗るのは初めてで、高いところからの眺めはとても楽しそうでした。



アユタヤ遺跡はとても広く、大きな仏塔などが



あり、中でも有名なのが、ガジュマルという木によって、木の根の成長とともに持ち上げられたという仏像の頭を見ました。他にもたくさんの仏像があるのですが、殆どが破壊され、首から上のない仏像ばかりだったのが印象的でした。帰りのバスでは、さすがにこの日は気温も高く、結構歩いたので皆さんお疲れ気味でした。ホテルで一休みすると、2日目の夕食です。食事は中華で、とてもおいしかったです。その後はそれぞれマッサージに行かれたり、夜の街を散策されたり、楽しまれていたようです。

14日（金）は日本大使館表敬訪問や、夕方からはレセプションの事業がありました。日本大使館では大変お忙しい中、小島誠二在タイ日本国大使館特命全権大使とお会いし、九州国立博物館三輪館長また太宰府天満宮西高辻宮司も参加され、表敬訪問させていただきました。めったに入ることのできない大使館に入り、貴重な経験ができたと思います。



午後からは、タイ国立博物館で特別展覧会レセプションが行われました。日本から文化庁長官や小島在タイ日本国大使館特命全権大使、三輪館長、西高辻宮司の来賓者をはじめ、タイ王国文化省大臣、芸術局長と早々たつ顔ぶれでのレセプションです。日本からは太宰府天満宮の神楽巫女舞が、タイからもタイ舞踊が披露されました。



参加者に梅が枝餅と日本茶を振る舞うこととしました。接待担当の方は早くから着物に着替え、レンジで餅を温めなおすという作業も無事に成功し、約 300 名の参加された方もとても喜んでいました。本当にお疲れ様でした。

レセプションでは特別展「日本とタイー二つの国の巧と美」のテープカットが行われ、その後内覧会もありました。展示の内容は、日タイ共同で構築しており、共通のテーマを設けて、これに関連する両国の文化財を展示することで共通性と独自性を示し、日タイ両国の貴重な文化財 111 点が一同に会して、両国がアジアの中でも文化の特質を示すという素晴らしいものでありました。



15 日（土）はいよいよ事業委員会が中心となり九博のボランティアも参加したワークショップと両国ボランティアの交流会です。ワークショップのテーマは、「両国の昔からあるおもちゃで遊ぶ」です。

事前の準備も大変だったと思いますが、松岡委員長を中心に暑い中、外の中庭のテントでの開催でした。タイ側のボランティアの方々と共に、独楽やかざぐるまを作ったり、お手玉や剣玉、竹馬などで現地の家族の方と楽しそうに遊んでいました。またお互いの国の着物を着るコーナーも賑わいました。まさに民間交流とはこのような形ではないでしょうか。



午後からは、交流会です。それぞれ日本側とタイ側でプレゼンをし、その後、意見交換会をやるというものです。様々な意見交換を行い、お互いに今後も交流を図り、更なる協力と活動を約束して終了しました。4 月からの帰国展も楽しみです。



ホテルに戻り、最後の夕食をとるとタイともお別れです。夕食はタイ舞踊を見ながらの食事でした。飛行機に乗り、福岡空港に着くと、出発した日より寒く、バンコクの暖かさが良かったと感じました。

最後になりますが、今回の支援旅行を計画するにあたり、1 年ほど前よりご協力いただきました九州国立博物館の方々、太宰府天満宮の方々、多くの協力いただきました皆様に感謝申し上げます。そして、ご参加の皆様、現地で活躍いただきました実行委員会の皆さん、ご苦労様でした。



ワークショップ（折り紙の独楽作り）に参加して

広報委員会 伊東みち子



『タイと日本の遊びの比較—似たものと違うもの』をコンセプトにワークショップは開催されました。日本の着物とタイの衣装・竹馬と椰子の実ぼっくり(バランスウォーキング)・風車と音の出る紐細工・お手玉と紙細工(球)・独楽と草細工などそれぞれ5つのブースがありました。室内とばかり思っていたら、屋外の芝生の庭(前日レセプションが行われた場所)にテントを張っての催しでした。わたしたち折り紙のブースが一番奥。「何人来てくれるかな? 地味だからあまり来ないかも。」「暑いよね。陽が回ると机を下げなくては・・・」と少々不安にかられながら準備していました。が、そんな心配をよそにお客さんは次々に現れて、同時に二人を相手に教えることが多く、夢中になっていました。幸い心地よい風もあって太陽のことなどすっかり忘れていました。

可愛いお客さんから年配の方まで、全員自分の手で折り上げていきました。出来上がらなかった人のために完成品を用意していましたが、それも杞憂で、きちんとしかも器用に折っていたことに感心しました。つたない英語や身振りでも、どうにか折り方を伝えることができてホッとしています。英語も単語しか話せず、肝心なところでは日本語になり、こうよあ~よと。それでも、折り方の手本を見せるとその通りに折り上げてくださいました。感謝!



そうそう、前日のレセプションと本日の開会式で通訳をされた女性の方が来られ、独楽を折っていきました。日本語は東京で1年勉強し、名古屋芸術大学大学院で焼き物の勉強をされたとか。

他のブースも大盛況で、現地の小学生が竹馬に挑戦し、笑顔をほころばせながら、一心に乗りこなそうとしている姿に自然に拍手がでました。(左の写真)

浴衣を着せてもらっていた家族連れは、とても似合っていてあまりの可愛さに、つい写真のモデルになっていただきました。(右の写真)

むずかる赤ちゃんの機嫌を直したベテランさんは親御さんから感謝されました。



お手玉担当の桑原さんの話

お手玉も人気で特に赤いちりめんを好まれる方が多かった。中に何が入っているのか興味津々で、ペレットはタイでは見かけないという話でした。タイにもお手玉に似たものがあるって、中には小石を入れていたので、当たると痛かったらしい。「豆をいれたらいい」とアドバイスしました。作り方を聞かれる方もいて、丁寧に教えました。用意したお手玉 90 個近くを遊んだ後にあげました。



着物着付け担当の今村さんの話

一人で 50 人くらいに着せてあげました。汗だくになりながら途絶える間もなく次々と帯を締めました。とてつもなく忙しくて腰も手も痛くなりましたが、はしゃいでいる子どもや喜んでいる大人を見ると嬉しくなり、こちらも楽しみました。良い体験をさせていただき、感謝しています。



＜特別＞な場所で、＜特別＞な人たちと

福岡県職員 元永 行英



九州国立博物館では、主にイベント事業を担当していた私ですが、並行して印象に残る仕事をいくつかさせていただきました。なかでも「タイ交流事業」や「愛する会」には＜特別＞の思い出があります。

タイとの交流事業は、九博の提案が JICA に採択されたことを契機に 2007 年からスタートしました。その申請事務や初年度の交流を、幸運にも私は担当させていただきました。海外でのシンポジウム開催という重圧のかかる任務をバンコクの協力のもと円滑に実施できたこと、あるいはタイの学芸員を招へいして大宰府をはじめ各地で心暖まる交流を重ねたこと、それらは今でもあざやかに心に残っています。同時に、事業を通してタイの関係者と絆を深めることが出来ました。

一方、「九州国立博物館を愛する会」では、ご承知のとおり、館と市民のかかわりについて皆さんと一緒に思いをめぐらせてきました。変遷を経て、今や、会の活動が九博にとって欠かせないものになっているばかりではなく、博物館における市民活動のあり方として注目を集めていることを、心から嬉しく思っているところです。

そのような折、ふたつの＜特別＞がバンコクで融合するという話を思いがけず耳にし、「これは見届けない訳にはいかない」という心持ちでこの旅行に参加した次第です。

実際に現地では、事業に携わる全ての方々のお力で。展覧会からワークショップ・交流会に至るまでとても友好的な雰囲気が満ち溢れており、抜けるような青空の下、お世話になったバンコクの学芸員のすぐ隣で、「愛する会」のおばさまが地元の子ども相手にけん玉を振り回している姿などを目の当たりにすると、本当に言いようのない感慨に満たされたのでした。

このような機会を与えていただいたことに心から感謝いたします。ありがとうございました。



バンパイン宮殿 タイ様式の建物



餅娘？



開会式セレモニーの後で

「没後 120 年 ゴッホ展」によるこそ

文化財課長 臺信祐爾

オランダ人画家フィンセント・ファン・ゴッホ（1853-1890）は、1956年のアメリカ映画「炎の人」や劇場公演などを通してわが国でも広く親しまれ、世界的に見ても大変人気のある画家の一人である。

牧師の子供として生まれ、画廊、寄宿舎学校、書店に勤めたあと、貧しい人々にキリストの教えを説く伝道師を目指したが、熱心さがかえって仇となり、解雇という結果を招いた。夢が潰えてしまったゴッホは、画廊店員で4歳下の弟テオ（テオドルス）・ファン・ゴッホ（1857-1891）の勧めもあって、27歳で画家になることを決意した。

伝記、映画や演劇で強調されがちなその強い個性と劇的な最後のために、ゴッホは感情のおもむくままに絵筆を取った画家であると思われがちだが、実際はほぼ独学で苦勞しながらデッサンや油絵を学び、独自の様式を確立した努力の人である。10年後37歳で自殺してしまうが、驚くべきことに、画家として過ごしたわずか10年間に素描、油絵など約2000点もの作品を残した。生前には評価されず、生涯売れた作品は油絵1点のみと言われている。目に見えるものを描くことにこだわった画家だが、「アルルの寝室」では各種の色彩を通して「完全な休息」を表現することを意図していた。そのため表現主義など20世紀以降の近代絵画を予見させる要素も多く見られ、そこに人気の秘密の一端があると思われる。

今回の展覧会は、ゴッホ自身の油絵、素描と版画計68点、および彼が学んだ絵画の技法書、作画の参考とするために新聞雑誌から切り抜いた版画や同時代の画家たちの作品など、合計122点が並んでいる。オランダのゴッホ美術館とクレラー・ミュラー美術館というゴッホの二大コレクションの全面的協力の下企画された展覧会で、ゴッホの創造の秘密に迫ろうとするものである。小さな「ゴッホメモ」も是非手にとっていただきたい。

日本に強い憧れを抱いていたゴッホは、テオとともに350枚以上の浮世絵を収集していたといい、「種まく人」の画面を横切る太い幹、単純な色使いや強い輪郭線などに浮世絵からの影響を見ることができる。またTBS美術スタッフが製作した「アルルの寝室」の実物大再現模型が作品の横に置かれているため、ゴッホが実際に暮らしていた空間とそこから生まれた絵画世界とを比較することができる。

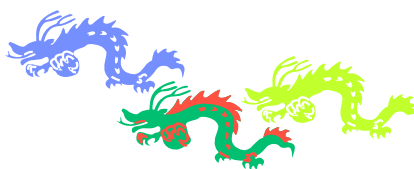


「種まく人」 1888年

開館後初の西洋画展であるため、展示のための壁を準備し、照明に気を配り、多くのお客様が混乱なくご覧いただけるようさまざまな工夫をしている。皆様の期待に応えるとともに新たな九博ファン層の開拓につながることを祈っている。知り合いの方々への周知をよろしくお願いしたい。「公共交通機関をご利用ください」の一言を添えて。

画像は 「種まく人」 1888年
ファン・ゴッホ美術館（フィンセント・ファン・ゴッホ財団）

イベント情報



開催日	時間	もよおし	その他条件	会場	(※)
特別展「没後120年 ゴッホ展」関連イベント					
～2月13日(日)	9:30～17:00	ヒマワリの種でゴッホの自画像 モザイクアート 「美の種ひまわりプロジェクト」	無料	エントランス	B
その他のイベント					
1月28日(金)～ 2月6日(日)	9:30～17:00	東長寺五重塔展	無料	ミュージアム ホール	F
2月15日(火)～ 2月20日(日)	9:30～17:00	筑紫地区小学校児童画展	無料	エントランス	A
2月19日(土)	13:30～15:30	第8回ガムランワークショップ	要申込・無料・ 定員28名	ミュージアム ホール	C
2月20日(日)	10:00～16:30	九博子どもフェスタ (愛する会主催)	無料	ミュージアムホール ／エントランス	A
2月20日(日)	①12:00～ ②14:00～	きゅーはくミュージアムコンサ ート 子どもフェスタ特別公演 クラウン楽団『あっとらんだむ』 ミニコンサート&バルーンワークショップ	無料	エントランス	A
2月22日(火)～ 2月26日(土)	9:30～17:00	第5回福岡県景観大会 「風景にきづく 景観をきずく」 景観文化展等作品等展示	無料	エントランス	H
2月22日(火)～ 3月6日(日)	9:30～17:00	筑紫地区文化財写真展 「ちくし再発見～ 文化財の匠と技～」展	無料	エントランス	A
3月8日(火)～ 3月13日(日)	展示会 9:30～17:00 ワークショップ 13:00～16:00	博多織プロモーション計画3 展示会・ワークショップ 「博多織に触れよう(仮称)」	無料	エントランス ／研修室	I
3月13日(日)	13:00～15:00	博多織プロモーション計画3 講演会「献上博多織の技と心(仮題)」 小川規三郎(博多織職人、重要無形 文化財「献上博多織」保持者)	無料	ミュージアム ホール	I
3月26日(土)	未定	第15回九博デー (愛する会主催)	無料	ミュージアム ホールほか	J

(※)注

- A 九州国立博物館 NTTハローダイヤル 電話050-5542-8600 (8:00～22:00)
 B 西日本新聞イベントサービス内「ゴッホ展」イベント係 電話092-711-5491(平日10:00～18:00)
 C 九州国立博物館 交流課 電話092-929-3294
 F 東長寺 電話092-291-4459
 G 九州国立博物館 交流課 電話092-929-3602
 H 福岡県景観大会開催事務局(男女・子育て環境改善研究所内) 電話・FAX092-761-4346
 I 九州産業大学 芸術学部 電話092-673-5700
 J 九州国立博物館を愛する会 電話092-924-8338

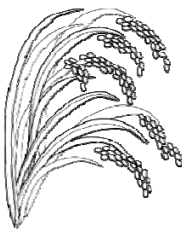
『米つくり隊』の活動を振り返って

須川 一幸

人が主役の博物館 学芸員、博物館ボランティア、愛する会はじめ 市民がそれぞれの役割を果たす博物館



2004年10月から九州国立博物館を支援する会・ボランティア研究部会に出席させてもらい、多くの方たちと話し合い、企画し、「市民に開かれた博物館」「市民が自ら参画する博物館」とするための具体的な活動が大切であると実感しました。箱物・資料展示が主役ではなく、「学芸員が主役の博物館」「市民が学芸員の応援団」「市民による博物館ボランティアがキャスト」という従来の博物館の概念とは異なる考え方が大切である。今までは国宝などの展示物が主役だった。来場者は一度見たら二度と来ない。学芸員が面白おかしく説明してくれてはじめて展示物の内容・意味・物語が理解できる。展示物に命が吹きかけられる。だから学芸員や博物館ボランティアに会いに何回も訪れるようになった。その結果800万人を超える来館者を迎えられた。と私は思っている。



そんな九州国立博物館・文化交流展示室では「稲づくりから国づくり」をテーマに水稻耕作と金属器の普及について展示され、国の繁栄についての稲や金属器の役割についてわかりやすく説明されている。九博は比較的田舎に立地し周囲には農業集落もあり、博物館の文化交流展示室と水稻耕作の田んぼを結んで、館内展示と田んぼのフィールドミュージアムの立体的な融合を図り、具体的にわかりやすく「稲づくりから国づくり」を子どもたちに楽しく体験してもらいたいと考えた。また、食育の観点から家族での参加で、子どもたちに楽しく食事をすることを学んでもらえるとも考え、『米つくり隊』を設立した。

- ① 子どもの参加者の「稲づくり」体験プログラムでは、文化交流展示室で「稲づくりから国づくり」を観覧し学芸員の説明を聞き、日本の国の成り立ちについて、稲が欠かせないものであったことを知る。
- ② 学芸員と市民ボランティアといっしょに、実習田である太宰府市北谷の田んぼへ。!(^_^)! そこで年間を通じ米づくりの様々な農業体験を積んで、お米や農業の大切さにも気付く。
- ③ ここでは、地域の農家の人たちが先生となり、稲づくりとともに農業文化・農村文化を体験する。田植え、草取り～稲刈り・架け干し体験などの「稲の一生」を、体験を通して知ると共に、「案山子づくり」「注連縄づくり」などの体験、「おにぎり」「団子汁」「お餅つき」などの食育体験も経験できる。
- ④ ご飯を残さず食べる子どもたちになってもらいたい。



6月5日(土)晴天。いよいよ田植え。
大人六九名子ども三七名の計一〇六名の参加



7月10日(土) “太宰府・北谷の
田んぼ”の「草取り」
大人30名、子ども14名の
計44名が参加



8月29日(土) 案山子づくりと九博体験(吉野ヶ里イベントに参加) 大人45名、子ども25名の計70名が参加



10月17日(日) 稲刈りと
架け干し体験
大人62名、子ども28名の
計90名が参加

はい！息を合わせて！
杵をぶつけないでね。



ほらこうするとよ。
もっと力をいれて！



12月12日(日)「餅つき」体験 大人
60名、子ども29名の合計89名の
参加。+五条地区の方たち60名も
餅を食べました



うわっ！！すんげえ
うまい！！





真ん丸い餅ができたよ。ボールみたい。



楽しい食事風景と食事制作班



食事制作班の協力者(男性の農家の協力者は写真を撮るのを忘れていました)

来年度(平成 23 年度)の予定：

子どもたちのために

- (1) 九博 4 階「文化交流展示室－稲づくりから国づくり」の観覧と案内会を実施したい
- (2) 田んぼでの「米づくり」を体験させたい(フィールドミュージアム＝太宰府まると博物館)
 - ① 田植え(6 月予定) ② 草取り・案山子づくり(7 月～8 月予定)
 - ③ 稲刈り・架け干し(10 月予定) ④ 脱穀(10 月～11 月予定)
 - ⑤ 餅つき(12 月地区公民館で、3 月九博で予定)
- (3) 楽しい子ども体験プログラムを実施したい
 - ① 田んぼの生物探し(6 月予定)・・・ほたる、アメンボウ、おたまじゃくし等
 - ② 農家の夏祭り体験(夏休み予定)
 - ③ 収穫祭と昔の遊び体験(10 月予定)・・・注連縄づくり、竹馬づくり、わら細工
 - ④ おにぎりづくり、団子汁づくり、餅づくり等食育につながることを毎回実施
 - ⑤ 芋づくり体験(稲づくりと平行して実施)・・・芋掘り～芋料理づくりを実施
- (4) 子どもたちは感想画を描き、九博で展示会をしたい
 - ① 子どもフェスタの時に展示予定(子どもたちの活動の発表)

大人のために

- (1) 酒米をつくりたい(5～6 反)
- (2) 4 合ビンで 3,000 本(2 月／新酒、9 月／冷おろし、
12 月／純米酒と各 1,000 本ずつ配布予定)
- (3) 子どもたちと一緒に(2)の①～④を実施し、酒造メーカーに製造を委託予定
- (4) 名前を募集予定(宝満乃恵、北谷之誉、愛の架け橋など)
- (5) 酒蔵祭(祝宴)を予定

これからも『米づくり隊』に参加をよろしくお願いします。



九 博 子 ど も フ ェ ス タ



「博物館って本当に楽しいよ！」

日時：平成 23 年 2 月 20 日（日） 10：00～16：30

会場：九州国立博物館 エントランスホール・ミュージアムホールほか

今年も好評の九博子どもフェスタを開催します。

手で触れて遊び、自分で作って遊び、楽しく面白く身体で体感し学ぶことができるように九博を愛する会のボランティアと九博ボランティアの皆さんがそれぞれ工夫して準備しました。



内容 ＊ キュートなピエロ チャカポコとその仲間

ゆかいなピエロたちの楽しいコンサートとバルーンワークショップを開催します！

＊九博子どもにわか 他

エントランス

＊ ひみついっぱい！チビッコ探検隊

内まわりコース 博物館のだいじなお仕事

外まわりコース 自然となかよし！博物館

＊ わたしは遣唐使（人間すごろく）

＊ 木目込みまりを作ろう！

＊ チマ・チョゴリを着て、見て遊ぼう！

＊ 機を織ってみよう！

＊ ハニワの色付け体験

＊ 折り紙、くみひも、風車ほかワークショップがいっぱい

＊ きゅーはくの絵本 読み聞かせ



詳細内容はチラシ・九博を愛する会ホームページ(HP)・九博 HP をご覧下さい。



尚、NTT ハローダイヤル ☎050-5542-8600 でもご案内いたしております。

又、特別参加として筑紫地区児童画展（小学校 48 校各学年 1 枚の優秀な作品約 300 点）が 2 月 15 日（火）～20 日（日）までエントランスホールで展示されます。会員の皆様のご来館を心からお待ち致しております



写真は昨年のも子どもフェスタ

「感謝の心」

広報委員会 松山 勝利



私の耳元で誰かがささやく。「俺がこの曲にこめた心がわかるって・・・」「いや、ベートーベンさん、あなたのこの曲は難しい。しかし、そんなことは関係ない。これを聴くと自然と感謝の心が湧いてくるんですよ。それでいいんじゃないですか・・・」

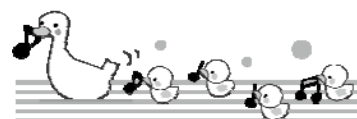
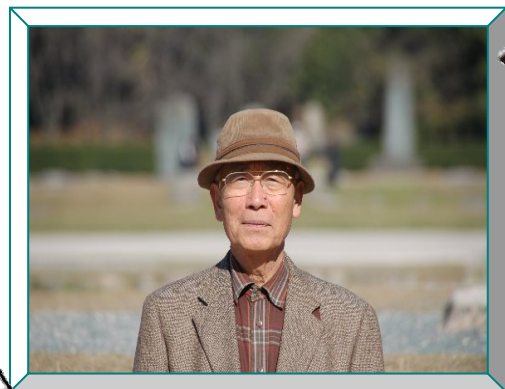
心が落ち着かない時、この曲に接すると本当に気持ちが休まる。それはベートーベンの弦楽四重奏曲 15 番イ短調。彼の最晩年、亡くなる 2 年前大病を克服し「病癒えし者の神への聖なる感謝の歌」と題されている第 3 楽章、死と直面する体験が本当にすみきった神々しいまでの旋律として表現されている。

実は私も 10 数年前死にいたる病に倒れ、数か月後奇跡的にもう一度生命を頂いたという貴重な経験をしている。そういう事もありこの曲に接すると心の安らぎ、感謝の心、生きている喜びそして命の尊さを実感する。

ベートーベンの気高い崇高な精神性、それを自分も共有した気分になる。人間ついつい元気になると生命の尊さを忘れ、慢心が生じ感謝の心がなくなるものである。日々の生活に埋没し惰性に陥ったときはこの曲を聴き改めて「感謝の心」を思い出すよう努めている。クラシック音楽というと何かこ難しく構えがちになるが、それは何だろうか？

音楽は音を楽しむ、それでいいと私は思っている。

自分が好きな時に気ままに好きな音楽を楽しむ、私のストレス発散法。寒さもいよいよ本番、ぬる爛を楽しみながら冬の夜、我が家のコンサートもこれからがいよいよ佳境、音を楽しむそして「感謝の心」を忘れず楽しく今年もすごしたいものである。



編集後記：「九州国立博物館を愛する会」も創設より早や 5 年目を迎える。わずかつだが一步一步たしかかな歩みを刻んでいる。

今年早々、タイ国ボランティアとも楽しくあたたかい交流をしてきた。

当会報誌名「アクト」のように、今後もアクションを起こして行きましょう！！